

パラオ・コロールにおける日本委任統治期建築物の現存状況

正会員 辻原 万規彦*
同 今村 仁美**

南洋群島 南洋庁 近代建築
実測調査 公共建築物 医院

1. はじめに

本稿では、南洋庁が置かれて委任統治行政の中心地であった現在のパラオ共和国コロール州で、日本委任統治期に建設された建物の現存状況を、現地調査に基づき報告することを目的としている。1922(大正11)年に設置された南洋庁には地方行政のために7つの支庁が設けられていたが、コロールには本庁とパラオ支庁が置かれていた¹⁾。なお、当時の用語や呼称をそのまま用いた。

2. 調査の概要

現地での調査は、2001年7月12日~14日、2002年7月12日~24日、2003年8月17日~27日の三次に亘って行った。現地では、車や徒歩による踏査、現地の関係機関での聞き取り調査と資料収集、現地在住の当時を知る人々への聞き取り調査などを行い、一部の建物については実測調査を行った。

図は、1983年現在の地図²⁾を基に、1938(昭和13)年現在の復元地図³⁾と戦前期にアメリカ側によって作成された地図⁴⁾を重ね合わせ、さらに現地調査結果と日本委任統治期の街並みなどが写された数多くの写真などを用いて作成した。ただし、地図は未だ完全なものではない。

3. 現存している建築物

2003年8月現在で現存が確認された日本委任統治期の建物のうち、比較的規模が大きく、かつ実測調査を行うことができた5件について、概要を述べる。

(1) 南洋庁パラオ支庁(後の西部支庁)庁舎

現在は、Palau Supreme Courtとして使用されているこの建物は、1938(昭和13)年頃から1939(昭和14)年頃に建てられたと考えられる⁵⁾。RC造の一部地下1階地上2階である。設計者は不明だが、当時、南洋庁土木課内の建築行政や設計などを主導していたと考えられる山下弥三郎⁶⁾である可能性が高い。なお、南洋ホテルの車寄せ(現存)とこの建物の車寄せはデザインが類似している。

(2) 南洋庁パラオ医院本館

現在は、Palau Community CollageのMain Officeとして使用されているこの建物は、1931(昭和6)年ないし1932(昭和7)年頃に建てられたと推測される^{7), 8)}。RC造平屋建てであるが、戦後一時、一部2階建てとして使用されていた。設計者は不明であるが、同じ南洋庁のトラック医院とデザインが類似している。なお、2004年に

計画されているコロールからの首都移転後の取扱いは、2003年8月現在は不明であった。

(3) 南洋庁観測所

現在は、東西の2階部分を増築してBelau National Museumとして使われているが、2003年8月現在、新館が建設中であり、その後は保存を目指すとのことであった。1929(昭和4)年7月に、この建物の中央部分と1階東側部分が増築された⁹⁾。設計者は不明である。

(4) 南洋庁气象台

現在は、社会文化省の幾つかの部局が使用しているこの建物は、1938(昭和13)年に气象台を創設した以降に建設された。設計者は、前述の山下の可能性が高い。なお、2階部分は戦後建て直したのものである。

(5) 電信所の発電室

委任統治期の用途は、電信所の発電室と推測される¹⁰⁾。建設時期は1937(昭和12)年以前である¹¹⁾。現在は、当時の姿を留めないほどに増築されて国会議事堂として使用されているが、首都移転後の取扱いは不明であった。

4. さいごに

南洋群島における日本委任統治期の建築物に関する調査や研究は、未だ不明な点が多い。今後、鋭意、研究を進めていきたい。

謝辞：在日本パラオ大使館、オーシャンニック・ワイルドライフ・ソサエティ倉田洋二先生、パラオ日本大使館小川和美専門調査員ならびに三田貴専門調査員、山下三長氏ならびに実測の許可をいただいた各機関にご協力いただいた。なお本稿の一部は、平成13~14年度科学研究費補助金(奨励研究(A)、若手研究(B)、課題番号13750557)と平成13年度(第39回)三島海雲記念財団学術奨励金によった。記して謝意を表す。

<参考文献>

- 1) 南洋庁長官々房：南洋庁施政十年史，南洋庁長官々房，pp.46~56，1932.7.
- 2) United States Geological Survey：Topographic Map of Oreor，United States Geological Survey，1983.
- 3) 小菅輝雄：南洋群島 今昔，グアム新報社，pp.22~23，1977.5.
- 4) Dan E. Bailey：WW II Wrecks of Palau，North Valley Diver Publications，pp.16~17，1977.5.
- 5) 南洋群島文化協会，南洋協会南洋群島支部編：南洋群島写真帳，南洋群島文化協会・南洋協会南洋群島支部，p.66，1938.10.
- 6) 矢野，辻原，平川：南洋群島における日本人建築技術者について，日本建築学会大会(関東)学術講演梗概集，F-2，pp.335~336，2001.9.
- 7) 南洋庁：南洋群島地方病調査医学論文集，第二輯，南洋庁警務課，巻末写真集，1934.9.
- 8) 吉田清編：日本統治地域南洋群島解説写真帖，研文社，p.8，1931.2.
- 9) 川崎英男：台風発生地南洋群島の気象観測史，測候時報，33巻，pp.1~78，1966.
- 10) 瀧鉦太郎：南洋渡りある記，南洋群島協会々報，208号，pp.3~4，1965.3.
- 11) 著者不明：昭和12年度 大日本帝国軍艦 沖島特別行動記念，発行所不明，発行年月不明.

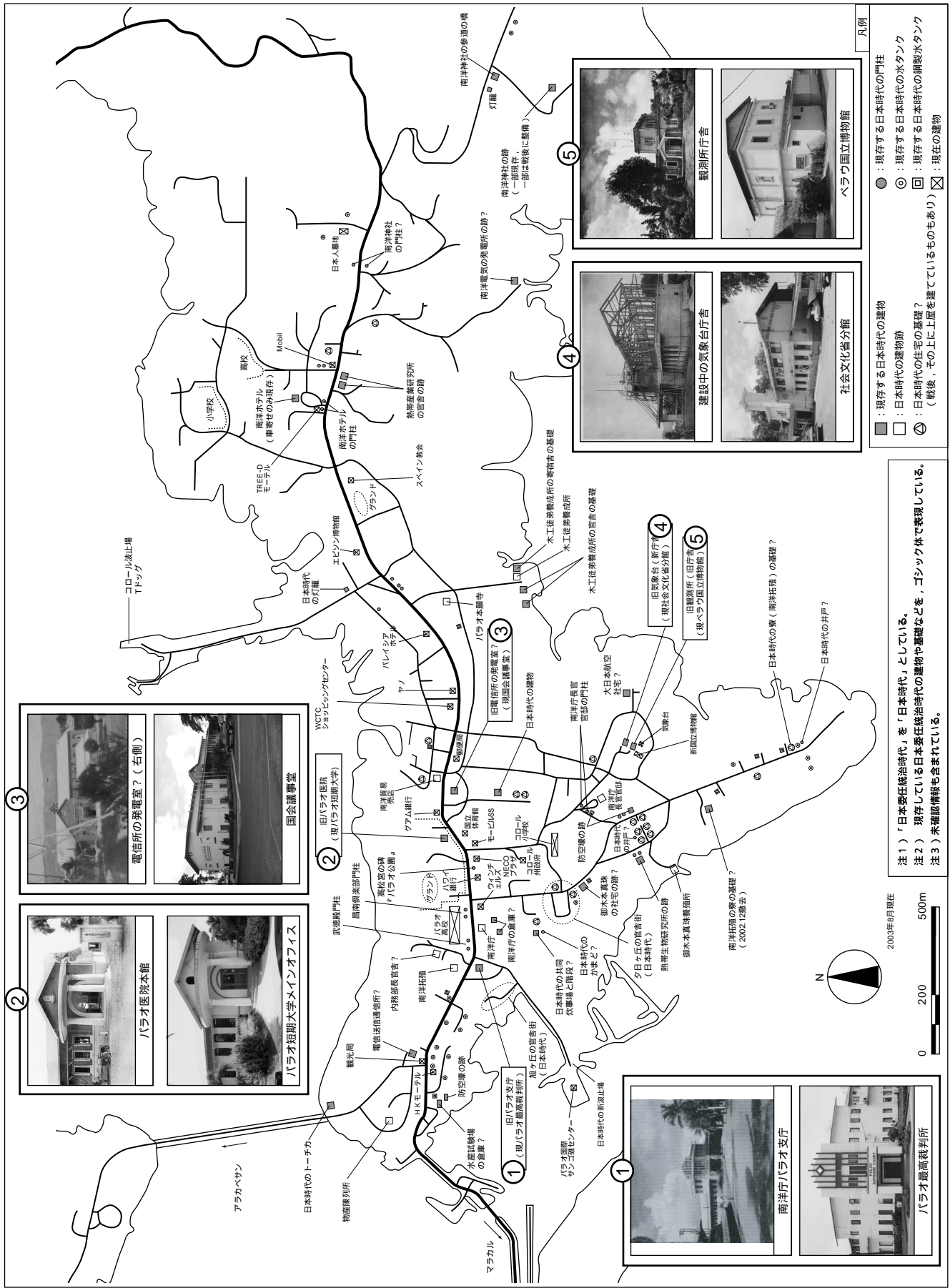


図 Paro・コロールにおける日本委任統治期の建築物の現存状況

*：熊本県立大学環境共生学部 助教授・博士（工学）
 **：アトリエ イマージュ

*：Assoc. Prof., Prefectural University of Kumamoto, Dr. Eng.
 **：Atelier Image